

己斐地区における路線バスの実証運行（案）について

エイチ・ディー西広島株式会社
(一社)バス協調・共創プラットフォームひろしま

1 己斐地区の路線バスの現状と課題

己斐地区は、県道伴広島線周辺に造成された複数の団地により形成されたエリアであり、公共交通はＪＲ山陽本線、広電宮島線・市内線、路線バスが運行されています。このうち、路線バスは西広島駅や都心方面との間の輸送を担っていますが、以下の課題を有しています。

- 2018 年度に約 7,300 人/日であったエリア全体の利用者数は、コロナ禍により 2020 年度に約 5,200 人/日に減少し、その後、2024 年度時点で約 6,000 人/日まで回復したが、コロナ禍前の水準まで回復しておらず、採算性が低い
- 特に、共立ハイツ・明山台線、フジハイツ・イトーピア線の 2 路線は利用が少ないほか、運行のない空白時間帯がある
- 八幡川の谷筋周辺や団地内には狭隘、急勾配の道路が多く、大型車両での運行が困難であることから、需要が想定されるもののサービスを提供できていないエリアがある
- 西広島駅北口地区も道路が狭隘なため、全てのバス路線が南口へ向かっているが、時間帯によって生じる己斐橋西詰交差点の混雑により、西広島駅へのアクセスに時間を要している

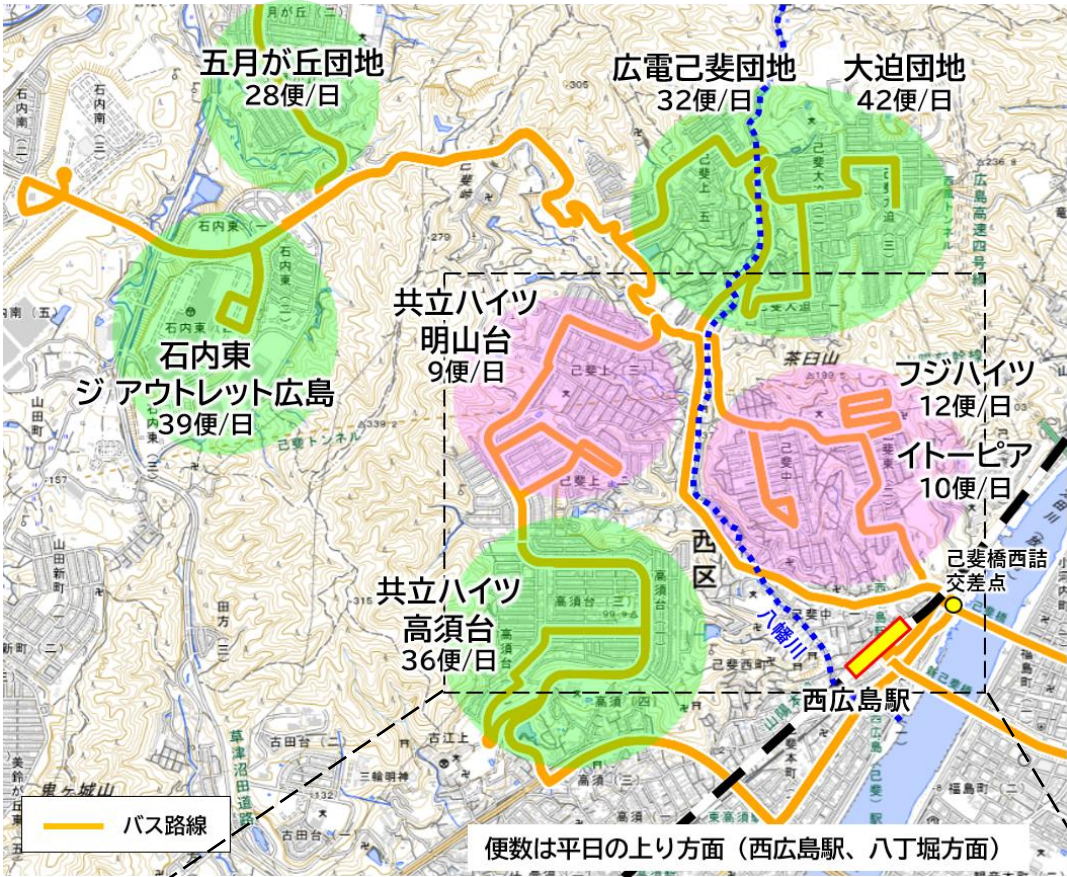
2 実証運行（案）

己斐地区の路線バスの利便性・持続性向上に向けて、次の実証運行を予定しています。

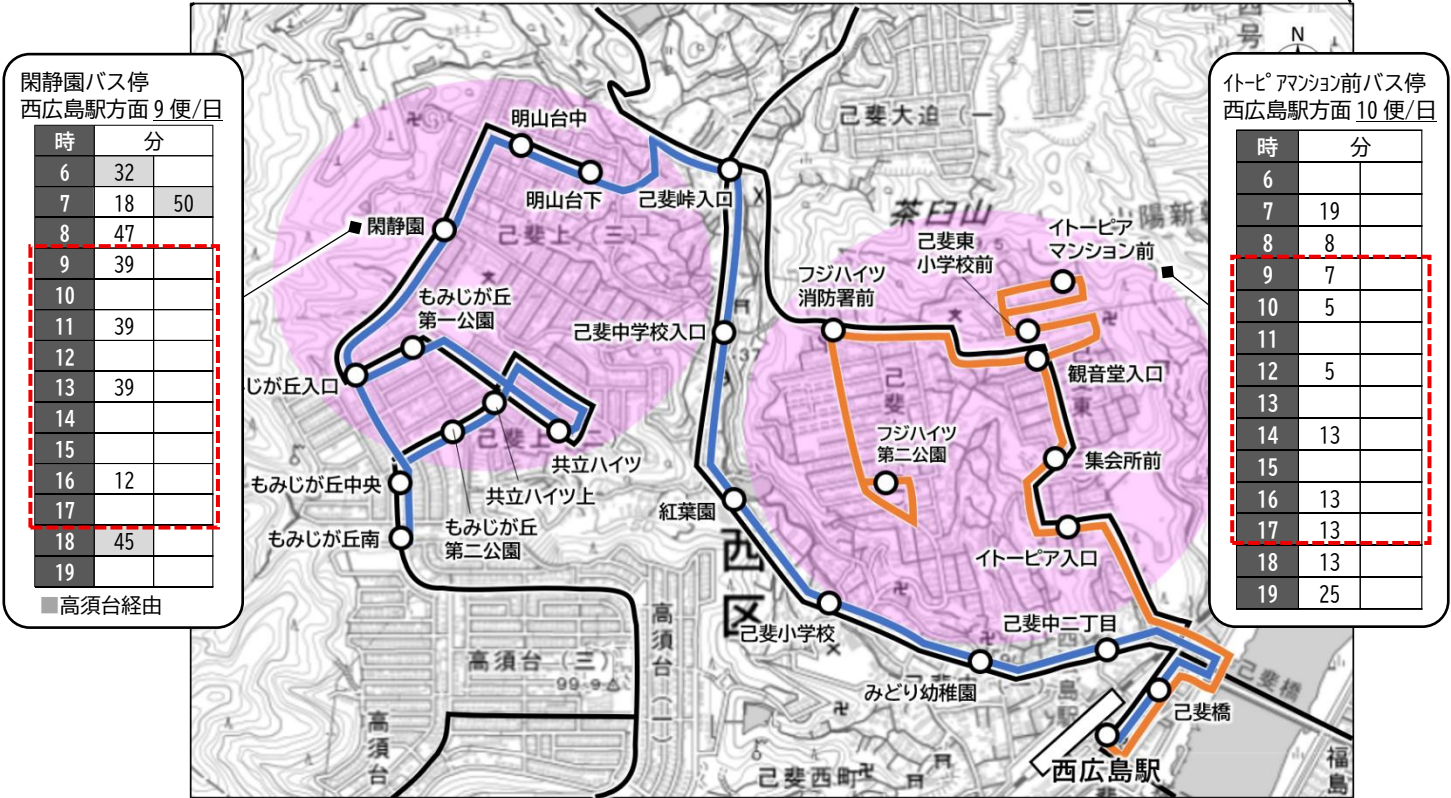
運行事業者	エイチ・ディー西広島(株)
実施期間	令和 8 年 1 0 月 1 日（木）～ 1 2 月 3 0 日（水）（予定） ※令和 9 年 1 月以降も運行を継続予定（期間内の利用状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを行う）
運行時間帯	6 時台～1 9 時台（終日）
ル	P 2 参照
実施内容	① 共立ハイツ・明山台線、フジハイツ・イトーピア線の 2 路線の車両を小型化 ② 小型車両の特性を活かし、現状の車両では運行が困難なエリアを新たに運行するほか、フリー乗降区間を設定 ③ 起終点を、西広島駅南口から北口へ変更することにより、駅へのアクセス時間を短縮 ④ ③によって生み出したリソースを活用し、小型車両の便数を増便（空白時間帯の解消）
検証事項	・車両の小型化による需要と供給の適正化 ・新たなエリアの運行やフリー乗降区間の新設等に伴う需要の変化 ・事業者の運行効率化

3 今後の予定

- 9 月中旬　沿線地域へのチラシ配布
- 1 0 月 1 日～　運行開始



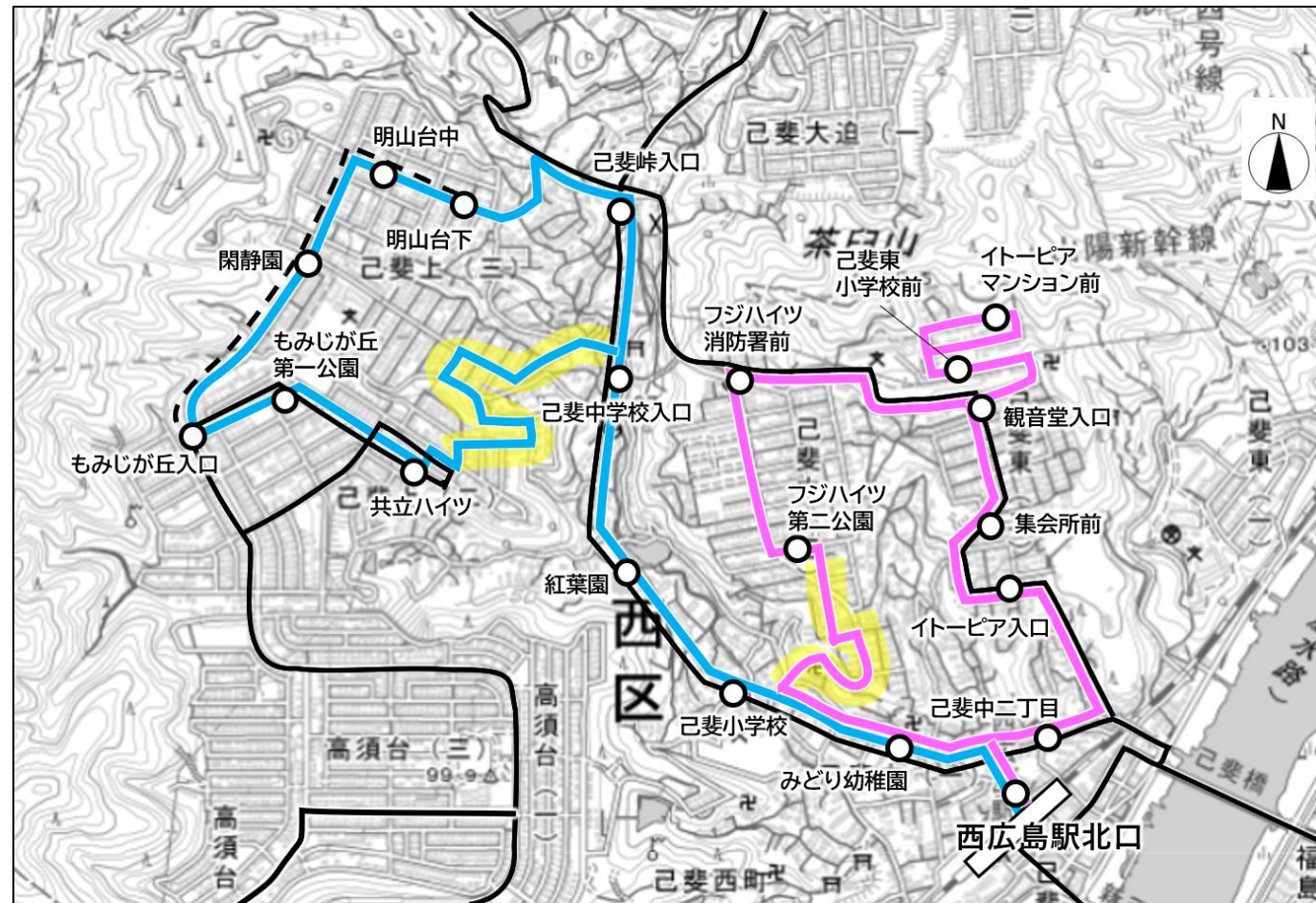
▲バスネットワークの現状（己斐地区全体）



▲バスネットワークの現状（拡大）

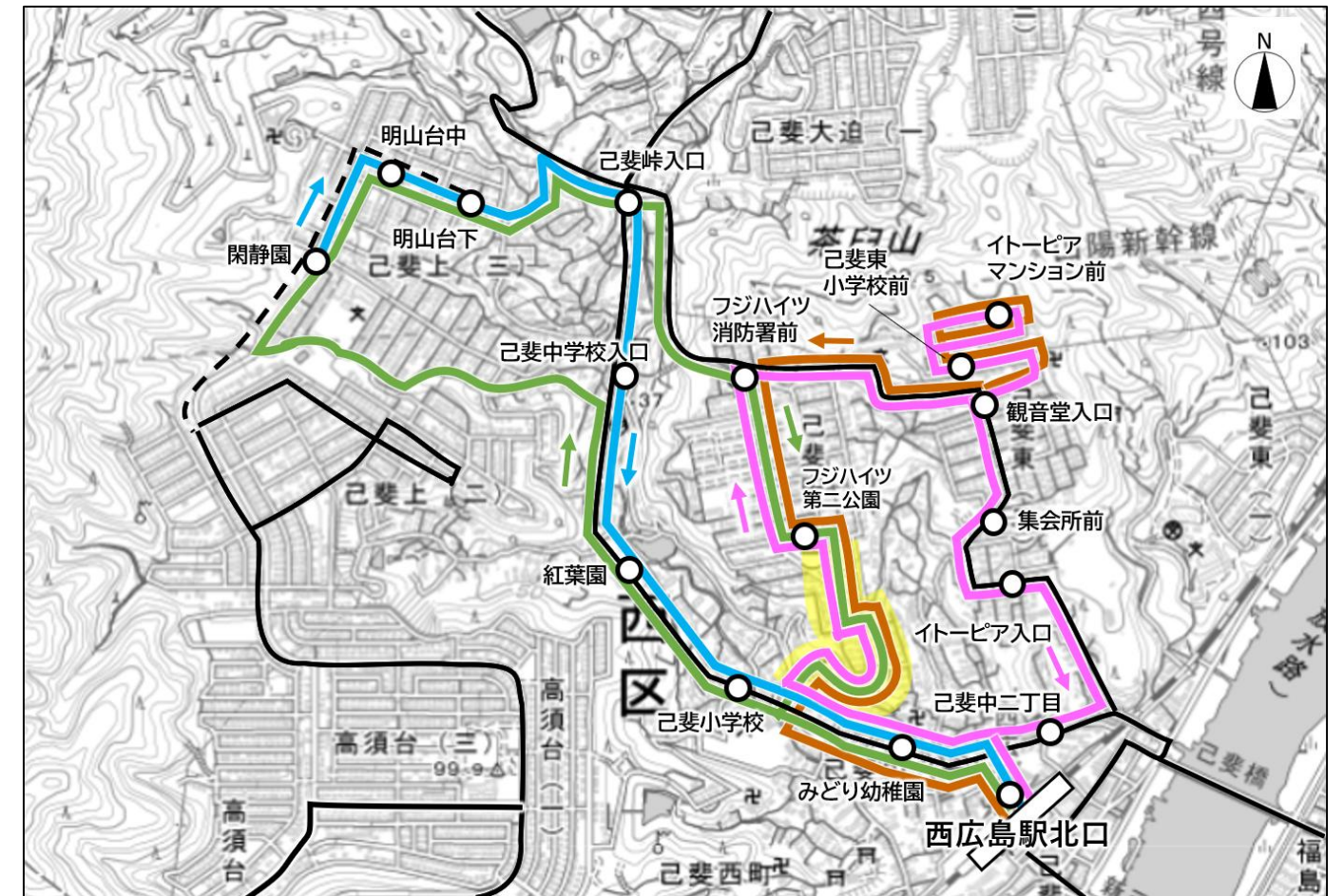
実証運行期間中のルート

▼オフピーク～タピーク（9時台以降）



- 共立ハイツ・明山台に関するルート（小型車）
- フジハイツ・イトーピアに関するルート（小型車）
- バス停（系統ごとに乗降可能バス停が異なります（調整中））
- フリー乗降区間（調整中）
- 既存のバス路線（中型車）

▼朝ピーク（6時台～8時台）



- 明山台に関するルート（小型車）
- 明山台・フジハイツに関するルート（小型車）
- フジハイツ・イトーピアに関するルート（小型車）
- フジハイツ・イトーピアに関するルート（小型車）
- バス停（系統ごとに乗降可能バス停が異なります（調整中））
- フリー乗降区間（調整中）
- 既存のバス路線（中型車）